１月	豊川　愛護モニター報告	モニター区間	豊川：左右岸 6.2km～17.8km 管轄出張所：豊川流域治水出張所
実施日		実施区間	吉田大橋～賀茂橋

名古屋ならばふつうに鈴鹿や伊吹の山々が冠雪している風景を見ることができるし、浜名湖あたりからは雪をいただいた富士山を見ることができる。それに比べ、東三河は雪化粧した山の風景とは無縁な地域と思われるかも知れない。しかし、豊川から渥美半島にかけて、天気が良ければ南アルプスの雪嶺を見ることができる。手前にある山が背後にある山々を隠してしまうため、むしろ南方にある王ケ崎や老津、さらに三河港大橋から江比間にかけての、北方への展望が開けている地域の方が見えやすいのだが、豊川河口付近や私の担当地域では、吉田大橋、賀茂橋近辺でも雪嶺を望むことができ、天気や時間帯によって、さまざまな姿を見せてくれる。11月下旬、南アルプスの雪嶺が見えはじめると、冬が近づいてきていることを感じるし、４月上旬、春霞で見えなくなってくると、もう寒さの心配をしなくていいんだなあと思う。地味ではあるが、季節の変化を感じさせてくれる存在である。

～渡し跡③～

◯暮川の渡し

豊川右岸堤防道路の 9.7㎞地点にある車止めから豊川に続く道の先にあったと思われる。

暮川の渡しはこれまで紹介した他の渡しとは異なり私設の渡しで、もっぱら地域住民に利用されていただけであったようである。何人かの人に聞いてみたが、その存在自体を知っている人があまりおらず、いつ廃止になったかもはっきりしなかった。実は渡しの場所も、ここだと確定する証拠があったわけではない。ただ、現在は車止めが設置されているこの小道は豊川以外にはつながっておらず、対岸が暮川近辺であることを考えるとここが渡し場であったと考えていいのではないかと思われる。

数年前までは、秋の除草が終わり、草木が枯れる冬ならば、草木をかき分けながらかろうじて川岸まで行くことができたが、現在では草木が生い茂り、川に到達することは極めて困難である。ただ、川岸まで行っても、写真のような護岸があるだけで渡しの形跡らしきものを見つけることはできない。ひっそりと、歴史の中に埋もれていこうとしている。